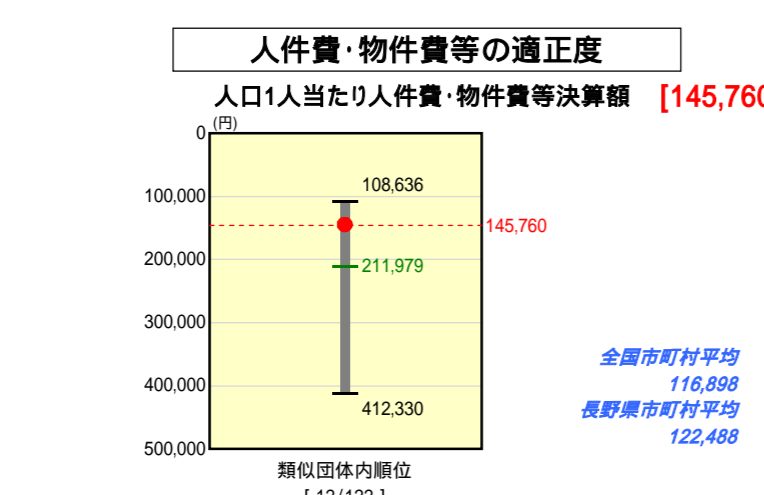
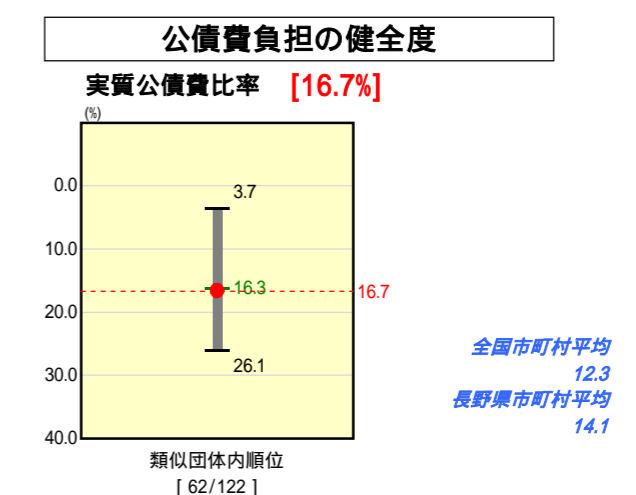
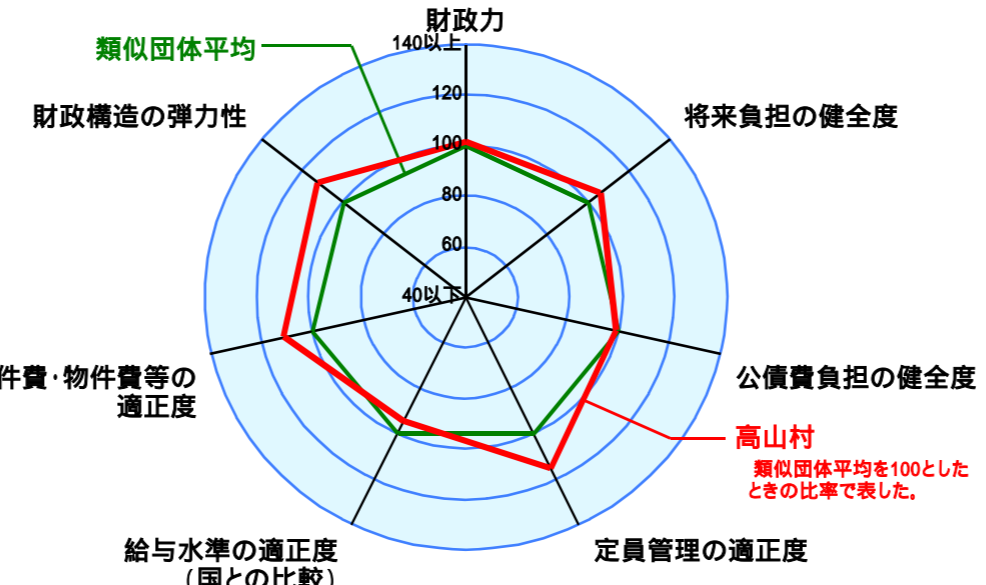
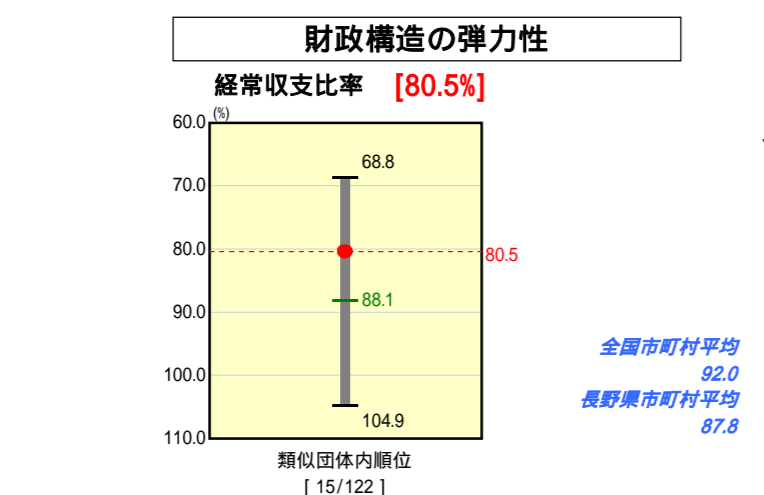
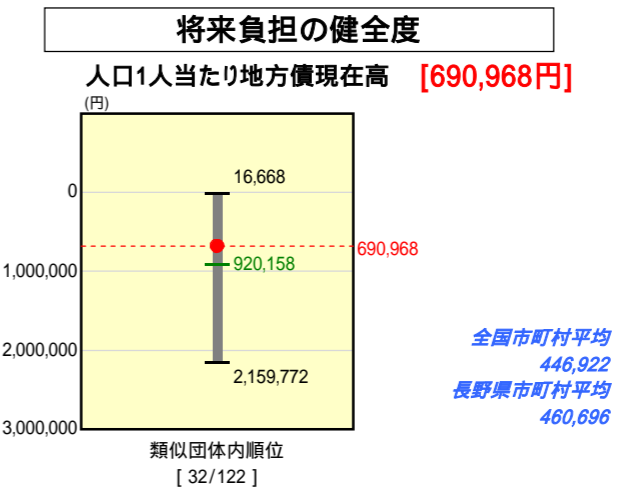
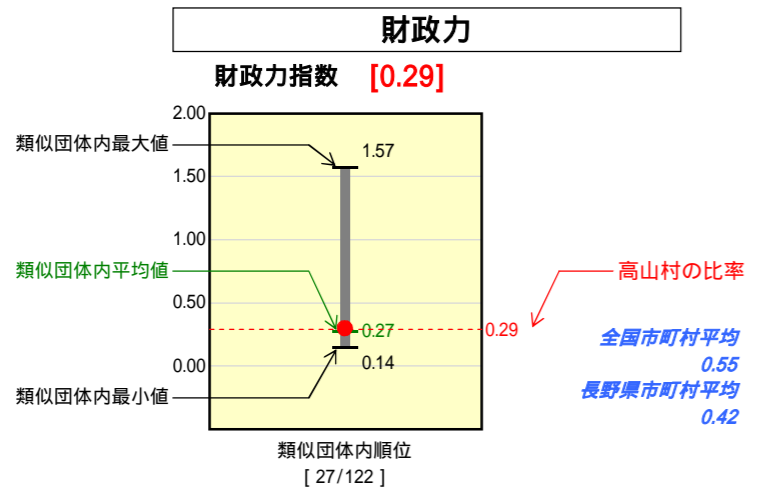


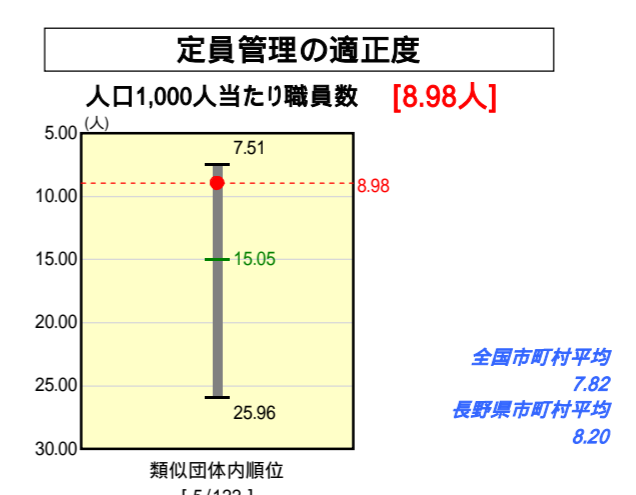
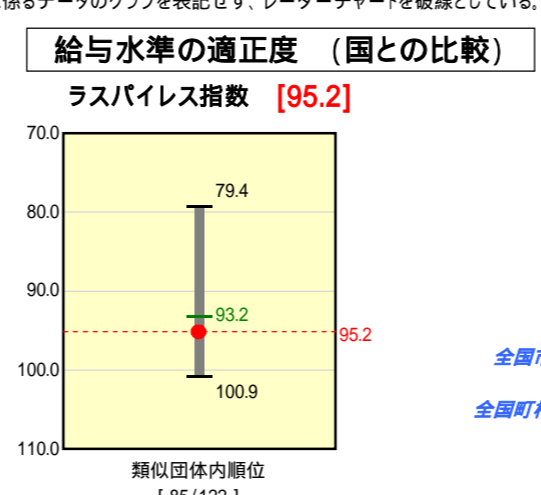
市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

長野県 高山村

人口	7,904人	(H20.3.31現在)
面積	98.50	km ²
歳入総額	3,977,382	千円
歳出総額	3,842,106	千円
実質収支	129,897	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



分析欄

財政力指数
税源が少ないため市町村平均を下回る状況である。今後自主財源である村税を確保するため、村内に整備された産業団地(県営事業)への企業誘致や村内への定住促進のため村営住宅等の整備、ワインぶどうの振興等産業振興の事業を積極的に取り組みたい。

経常収支比率
村行政改革実施計画に基づき、人件費の抑制、補助金等の見直しにより、類似団体、市町村平均より良好な状態であるが、年々扶助費等が、上昇傾向にあり、数値の悪化が懸念されることから、今後も一層の経常経費の抑制に努めたい。

人口一人あたり人件費・物件費等決算額
行革の推進により類似団体を大きく下回っているものの、市町村平均は上回っていることから、今後も事務事業の検証と、適正な人員配置に努めたい。

人口一人あたり地方債現在高
これまでの大型事業に伴う借入れにより、類似団体は下回るものの市町村平均は上回る数値となっている。大型事業が一段落したことから、今後は新規地方債の発行を抑制し、健全化を図りたい。

実質公債費比率
本村の起債償還額のピークが平成18年度であることから、平成20年度が実質公債費比率のピークが見込まれ、その後は償還額が減少することに伴い年々改善すると見込んでいるが、更なる健全財政の確保に努めたい。

ラスパイレス指数
行政改革実施計画により新規採用の抑制や退職不補充等職員定数の削減に取り組んでいるが、年齢バランスにばらつきがあることから、ラスパイレス指数が比較的高くなっている状況である。今後長期的な職員採用計画により職員構成の平準化に努めたい。

人口1,000人あたり職員数
厳しい地方財政運営が迫られているなかで、組織の見直し等により、職員の適正配置に努めている。退職不補充等により、類似団体と比較しても職員数は少ない状況にあるが、今後とも集中改革プランに沿って更に、事務事業を見直し定員の適正管理に努めたい。